

施策4 スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進

●施策の基本的な方針（施策の目的）

スポーツ・レクリエーション活動を振興し、市民ニーズに応えたスポーツ活動や健康・体力づくりが手軽に行える環境整備に努めるとともに、スポーツ団体や指導者の養成を図り、また、身近で日常的な施設から、国際的・全国的レベルの「見るスポーツ」にも対応できる施設まで、目的に応じた様々な施設整備を推進することにより、市民一人一人が生涯にわたりスポーツに親しみ、楽しめることを可能にする。

●施策の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるのか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
 - ・自分にあったスポーツ・レクリエーションを十分楽しんでもらう。
 - ・多くの市民がスポーツを見て、参加して、楽しんでもらう。

●成果指標

指標名	単位	17年度	18年度	19年度	目標値 (目標年度)
週に1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	%	17.5	19.9	—	30 (22年度)
スポーツ・レクリエーション活動に参加した市民数(年間延数)	人	4,144,995	4,354,503	4,473,101	4,500,000 (22年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の視聴率	%	男子 11.6 女子 11.6	男子 11.0 女子 9.8	男女混合 10.3	13.0 (22年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の応援者数	人	—	—	174,500	180,000 (22年度)

●平成19年度の評価

- ・スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進をはかるため、平成17年に「アクアリンクちば」、平成18年に「中田スポーツセンター」等の体育施設を整備し、多くの市民に利用されている。
- さらに、市民に身近なスポーツ施設として、学校教育に支障のない範囲で行っている「学校体育施設開放」についても、利用者が220万人を超える事業として地域の方々に定着している。
- ・国際千葉駅伝、千葉国際クロスカントリー大会は、テレビ放映もされていることから、「見るスポーツ」として市民に定着している。

●今後の課題及び施策等への反映方針

- ・地域においては、住民同士の連携と協調を高め、よりよい地域社会を構築する上で、スポーツ活動の果たす役割は極めて大きいことから社会体育における、人的・物的条件の早期整備、充実が望まれており、市民の健康・体力づくりに大きく貢献できるよう努める必要がある。
- ・市民サービスの向上を図るための情報サービス体制の確立とともに、民間施設を含めた既存スポーツ施設の有効活用を図り、市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーション活動ができる場の確保に努める必要がある。
- ・多様化する市民ニーズへの対応、生涯学習を展望したスポーツ振興を図るため、市民参加型のスポーツイベント及び国際的・全国的なスポーツイベントの開催・誘致に今後も取り組んでいく。

●施策を構成する基本事業と評価

基本事業名		基本事業に対する評価
事業の概略		
4-1	<p>スポーツ・レクリエーション機会の創造・充実</p> <p>市民の多様なニーズに対応したスポーツ教室、市民スポーツ行事等の推進・充実を図るとともに、健康・体力づくりの促進や情報サービスの提供を図る。 また、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。</p>	<p>「サンスポ千葉マリンマラソン」については、参加者各自の競技レベルに合った種目選択ができることから、参加者数は年々増加の傾向にあり、市民へのスポーツ・レクリエーション機会の創出・拡充に寄与している。</p> <p>市民スポーツ大会開催として、少年球技大会や家庭/バレーボール大会、市民ハイキングなど、気軽に参加できる競技を開催し、地区体育行事の振興に大きく貢献している。</p> <p>スポーツ関係団体補助金として、千葉市体育協会行事、千葉市少年スポーツ連盟等の事業に補助金を交付している。各団体においては、市民の運動ニーズに対応した行事を行うなど、本市スポーツ振興において大きな成果を上げている。</p>
4-2	<p>「見るスポーツ」の提供</p> <p>国際的、全国的レベルのスポーツイベントを開催することにより、市民スポーツ活動の普及を図る。</p>	<p>「国際千葉駅伝」や「千葉国際クロスカントリー大会」など、テレビ放映や会場での観戦を通じ、市民のスポーツに対する関心を高めることに大きく貢献している。</p> <p>今後は、市民参加型の大型スポーツイベント及び全国的なスポーツイベントの開催・誘致に取り組んで行く。</p>

基本事業4-1 スポーツ・レクリエーション機会の創造・充実

●基本事業の概要

- ・市民の多様なニーズに対応したスポーツ教室、市民スポーツ行事等の推進・充実を図る。
- ・健康・体力づくりの促進や情報サービスの提供を図る。
- ・総合型地域スポーツクラブの設立支援を図る。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
自分にあったスポーツ・レクリエーションを十分楽しんでもらう。

●成果指標

指標名	単位	17年度	18年度	19年度	目標値 (目標年度)
週に1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	%	17.5	19.9	—	30 (22年度)
スポーツ・レクリエーションの場が充実していると感じている市民の割合(※)	%	(15年度) 33.4	—	—	40 (22年度)
スポーツ・レクリエーション活動に参加した市民数(年間延数)	人	4,144,995	4,354,503	4,473,101	4,500,000 (22年度)

※ 平成21年度に実施予定の千葉市スポーツ振興計画（仮称）策定のための基礎調査において把握する。

●平成19年度の評価

- ・スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進を図るため、平成18年10月にオープンした「中田スポーツセンター」は多くの市民に利用されており盛況である。また、17年10月にオープンした、アイススケート場「アクアリンクちば」についても、開業以来の利用者が50万人に迫る勢いである。さらに、市民に身近なスポーツ施設として、学校教育に支障のない範囲で行っている「学校体育施設開放」についても、利用者が220万人を超える事業として市民に定着している。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・近年の余暇時間の増大、生活水準の向上、少子高齢化社会への移行等、社会生活環境の変化に伴い、市民の健康に対する関心は高く、スポーツ人口の増加とともに活動の欲求も多様化し、高度化している。
- ・また、地域においては住民同士の連携と強調を高め、よりよい地域社会を構成する上で、スポーツ活動の果たす役割は極めて大きいことから、社会体育における人的・物的条件の早期整備、充実が望まれており、市民の健康・体力づくりに大きく貢献できるよう努める必要がある。
- ・さらに「豊かな心と創造性を育む市民文化都市」を目指して、スポーツ・レクリエーション活動の普及・拡大と施設の整備を図り、市民一人ひとりが、それぞれのライフステージにあったスポーツ・レクリエーション活動を楽しく、継続的に実施できるようなスポーツ教室・スポーツ行事を開催していくとともに、市民の多様なニーズに十分対応できるような指導者の養成と確保が求められている。
- ・また、情報サービス体制を確立するとともに、民間施設を含めた既存スポーツ施設の有効活用を図り、市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーション活動ができる場の確保に努めなければならない。

●基本事業を構成する事務事業と評価

事務事業名		事務事業に対する評価
事業の概略・平成19年度決算額		
4-1-1	<p>サンスポ千葉マリンマラソン後援事業</p> <p>民間企業等が、千葉マリンスタジアムを起点とするシーサイドコースにおいて開催する市民マラソン大会であり、市民ランナーがその競技レベルに応じた種目に参加している。</p> <p>(879千円)</p>	<p>19年度は約15,000人の参加があった。</p> <p>各自の競技レベルに合った種目選択ができることなどから、参加者は増加傾向であり、市民へのスポーツ・レクリエーション機会の創出・拡充に大きく寄与している。</p>
4-1-2	<p>スポーツ振興財団運営補助金</p> <p>(財)千葉市スポーツ振興財団が行うスポーツ振興事業及び海洋思想普及事業等に対し補助金を交付し、市民のスポーツ活動の振興を図る。</p> <p>(124,214千円)</p>	<p>同財団は、スポーツイベント(19年度参加者数は、ミニサッカー大会約5,000人、ミニバスケットボール大会約3,500人等)やスポーツ教室の開催等を通じ、市民のスポーツ活動の機会の創出・拡充に大きく寄与しており、適正な補助であると考えている。</p>
4-1-3	<p>スポーツ施設管理事業(財団管理施設)</p> <p>3年度より体育施設の管理運営について、(財)千葉市スポーツ振興財団へ管理委託し、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりを目指すと共に、17か所のスポーツ施設の効率的な管理運営を図っている。</p> <p>18年度より指定管理者制度を導入し、10か所の施設管理を行っている。</p> <p>(774,833千円)</p>	<p>市内10か所の体育施設は、19年度は968,286人の利用があった。</p> <p>18年度より指定管理者制度を導入し、より質の高い、低廉な市民サービスの提供を行っている。</p>
4-1-4	<p>体育指導委員事業</p> <p>スポーツ振興法第19条に基づき、教育委員会が小学校区を基盤とした推薦委員会の推薦により、体育指導委員として委嘱する。小学校区のスポーツ・レクリエーション活動の企画・運営・指導等を行い、本市のスポーツ振興を図る。</p> <p>(12,840千円)</p>	<p>19年度は、年間652行事を開催し、約15万人の参加があった。</p> <p>市民の健康の保持、体力の向上のほか、スポーツ・レクリエーションを通じた仲間づくりにも大きく寄与している。</p>
4-1-5	<p>市民スポーツ振興事業</p> <p>市民が生涯にわたって、スポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で明るい生活が送れるよう、各種スポーツ教室をはじめ、研修会、講習会の開催や指導者の育成事業を行う。</p> <p>(23,502千円)</p>	<p>102コースのスポーツ教室(参加者19,361人)を開催し、子供から大人まで広くスポーツに親しむ機会を提供している。また、千葉市に303人のスポーツコーチャーが登録しており、その資質向上のための研修会は大きな成果を上げている。</p>
4-1-6	<p>スポーツ大会開催事業</p> <p>市民が気軽に参加できる少年球技大会、女子バレーボール大会、家族バレーボール大会、市民ハイキングなど各種スポーツ大会を開催し、スポーツ・レクリエーション活動の振興を図る。</p> <p>(79,138千円)</p>	<p>少年球技大会は21ブロック、240チーム2,832人の学童が参加し、夏季休業中の地区体育活動の振興に大きく貢献している。</p> <p>また、女子バレーボールは139チーム1,605人、家族バレーボールは170チーム2,186人が参加し、地区体育行事の振興に大きく貢献している。</p>
4-1-7	<p>千葉市スポーツ振興審議会事業</p> <p>スポーツ振興法及び千葉市スポーツ振興審議会に関する条例に基づき設置し、学識経験者及び関係機関の代表者10人により構成されている。本市のスポーツ振興の重要事項に関して多面的に調査審議して、教育委員会に建議する。</p> <p>(325千円)</p>	<p>本審議会は、本市のスポーツ振興の基本計画についての提案をはじめ、スポーツ振興の重要事項に関して多面的に調査審議して、教育委員会に建議するものであり、本市のスポーツを振興する上で大きな役割を果たしている。</p>
4-1-8	<p>スポーツ関係団体補助金</p> <p>千葉市体育協会、千葉市少年スポーツ連盟、千葉市社会体育振興会連絡協議会、千葉市体育指導委員連絡協議会等の事業や、レクリエーション体力づくり活動など本市のスポーツ振興を積極的に行っている諸団体に対して補助金を交付する。</p> <p>(33,609千円)</p>	<p>体育協会は38競技団体、約60,000人で組織され、本市の競技スポーツの諸団体を統括し、市民大会・各種目別大会を運営している。また、千葉市少年スポーツ連盟は13種目、238団体、約9,700人の連盟員を抱え、主に学童期のスポーツ振興を担っている。その他諸団体も市民の運動ニーズに対応し、行事を持つなど本市スポーツ振興において大きな成果を上げている。</p>

<p>4-1-9 学校体育施設開放事業</p> <p>千葉市立学校の校庭、体育館、武道場を学校教育の支障のない範囲において、スポーツの場として市民に開放し、市民の体力づくり及びコミュニティー活動の推進を図る。 (41,184千円)</p>	<p>本事業は、小学校120校、中学校56校の合計176校で実施しており、19年度は、2,273,078人の利用があった。市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーション活動を楽しめる場づくりを行っており、基本事業推進に寄与する事業である。</p>
<p>4-1-10 スポーツ施設管理事業(スポーツ広場等)</p> <p>市民が気軽にスポーツを楽しむ環境づくりを目指して、スポーツ広場2か所、運動広場21か所の効率的な管理運営を行う。 (10,227千円)</p>	<p>19年度の年間利用者は、スポーツ広場32,734人、運動広場163,582人であり、スポーツ活動の場として、市民に定着している。</p>

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

市民スポーツの振興のためのスポーツイベントや大会、教室の開催、スポーツの場の提供など必要な施策が行われており、スポーツ・レクリエーション活動に参加する市民の数も年々増加している。

基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されていると考える。

基本事業4-2 「見るスポーツ」の提供

●基本事業の概要

- ・国際的、全国的レベルのスポーツイベントを開催することにより、市民のスポーツ活動の普及を図る。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
多くの市民がスポーツを見て、参加して、楽しんでもらう。

●成果指標

指標名	単位	17年度	18年度	19年度	目標値 (目標年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の視聴率	%	男子 11.6 女子 11.6	男子 11.0 女子 9.8	男女混合 10.3	13.0 (22年度)
スポーツイベント(国際千葉駅伝)の応援者数	人	—	—	174,500	180,000 (22年度)

●平成19年度の評価

- ・「国際千葉駅伝」、「千葉国際クロスカントリー大会」は、千葉県及び県教育委員会との共催事業として実施し、テレビ放映もされている。会場及び沿道において、多くの市民が世界的なトップランナーを観戦することにより、「見るスポーツ」として定着している。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・社会環境の変化や多様化する市民ニーズへの対応、生涯学習を展望したスポーツ振興を図るため、市民参加型のスポーツイベント及び国際的・全国的なスポーツイベントの開催・誘致に今後も取り組んでいく。

●基本事業を構成する事務事業とその評価

事務事業名	事務事業に対する評価
事業の概略・平成19年度決算額 4-2-1 千葉市長杯争奪社会人野球大会事業 千葉マリスタジアムにおいて、社会人野球の関東選抜リーグ上位チーム等による関東選抜リーグ戦決勝トーナメントを開催するとともに、サブイベントとして、少年野球教室や指導者講習会を実施する。 (7,004千円)	少年野球教室でのJFE東日本の選手との交流等を通じ、市民のスポーツ(野球)に対する関心を高めることに貢献している。 技術レベルの高い野球を見ることで、さらに多くの市民にスポーツ(野球)に対する関心が高まることを期待できることから、大会観戦者を増やしていく必要があると考えている。
4-2-2 千葉国際クロスカントリー大会事業 昭和の森において、国内外からのトップランナー等によるクロスカントリー大会を開催する。 主催は日本陸上競技連盟、後援は千葉県・千葉市・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会ほか。 (1,971千円)	世界クロスカントリー大会日本代表選手選考会を兼ねるレベルの高い大会であり、テレビ放映や会場での観戦を通じ「見るスポーツ」として幅広い市民に提供しており、市民のスポーツに対する関心を高めることに大きく貢献している。
4-2-3 国際千葉駅伝事業 千葉市の中心市街地や幕張新都心等を巡る市内周回コースにおいて、世界各国の有力招待選手により男女混合国別対抗駅伝を開催する。 主催は日本陸上競技連盟・千葉県・千葉市・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会、国際陸上競技協会の公認大会である。 (30,043千円)	世界各国の有力招待選手が参加する、国際陸上競技協会公認のレベルの高い大会であり、テレビ放映や沿道等での観戦を通じ「見るスポーツ」として、幅広く市民に提供しており、市民のスポーツに対する関心を高めることに大きく貢献している。

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

テレビ放映での視聴率が10パーセントを超え、沿道で市民が多数応援しており、千葉市民に幅広く親しまれている「国際千葉駅伝」をはじめ、クロスカントリー大会や社会人野球大会といった「見るスポーツ」のイベント開催により、市民がスポーツに対する関心を高めていると思われる。

基本事業の達成目標に向けて、十分に目標は達成されていると考えられ、今後も国際的なレベルのスポーツイベントが継続充実されるよう期待する。